

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372400261		
法人名	株式会社 邑久幸ホーム		
事業所名	グループホーム 邑久幸ホーム ユニット共有		
所在地	岡山県瀬戸内市邑久町尾張94-1		
自己評価作成日	令和3年 11月 5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3372400261-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和3年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・運営理念である「入居者が主人公」を目指して、入居者の方が意志や感情をありのままに表現できる安心感のある雰囲気作りと笑顔で接することを心がけています。
 ・入居者の方が、その人らしく持てる力を発揮しながら、生活していただけるように寄り添う介護を行っています。
 ・ホームの中においても、季節の移り変わりを感じることができるように、菜園で季節の野菜や花を育てています。また、新鮮な野菜や季節の花を頂くことも多く、日々の生活の中で食事に提供したり、花を飾ったりしています。
 ・外出支援は積極的に取り組み、冬でも散歩や買い物が行えるよう、日々の健康管理に気を配っています。
 ・看護師の常勤配置により、日々24時間体制で連携がとれており、速やかな健康管理ができていますと共に、職員も不安なく業務ができています。
 ・職員の教育(接遇、認知症ケア)に力を入れており、病気があっても、入居者様を人生の先輩として尊敬している姿勢を大切にしている点。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営理念「入居者が主人公」に基づき、「人としての尊厳と人権を守り、自由と普通の生活を保障する」という日々の目標を定めている。自粛生活の中、生活が単調にならないよう敬老会を催し、特別な弁当を用意する等、入居者が楽しく過ごせるよう工夫している。感染予防の為、職員はもちろん入居者もマスクを着用している。家族との面会は、徹底した予防対策の下に行っている。敷地内には畑があり、野菜作りの経験がある利用者は張り切って畑仕事を楽しんでいる。管理者が看護師の資格を持っているため、入居者の家族からは、「とても安心出来る」という意見が寄せられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をフロー、スタッフルームに提示し、理念に基づいたケアが実践できているか職員会議、申し送り等を活用し、確認している。	運営理念に「入居者が主人公」を掲げている。理念を掲示し職員の意識付けを図り、共有して実践に繋がるよう努めている。研修にてスキルアップに励み、入居者の尊厳と人権を守るケアの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で実施できていない。例年であれば、夏休みには中高生のボランティア活動を積極的に受け入れ、地域特有の行事やお祭りへの参加などを通し地域の人々と交流を持っていますが、今はコロナ感染症予防対策を優先しているため控えていただいております。	コロナ禍で、地域の行事への参加や中高生のボランティアの受け入れ等は中止しているが、コロナ感染者が減少した為、感染防止対策を行いながら菊花展に出かけた。久しぶりの外出に利用者も喜んだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の認知症の相談、介護保険に関する質問等を随時受けています。現在はコロナ感染症予防対策のため積極的な地域との外部での交流は控えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	例年では、2ヶ月に1度開催しホームでの取り組み、活動報告、入居状態等を報告し、質問、要望、助言をいただき、ご意見は次の課題として取り組めるよう検討していますが、現在はコロナ禍で実施せず。感染症予防対策を優先し、開催事態を控えている。	運営推進会議は、代表、市の担当者、民生委員、老人会代表、家族、入居者代表が参加し意見交換が行われていたが、コロナ感染予防の為、現在は開催を中止している。	参加メンバーに議事録の送付を検討して欲しい。現状や取り組みを報告し意見を聞くことで、支援の質の向上に繋がると思う。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の方の訪問は、現在控えておりますが、市担当者様からはコロナ禍においての感染症対策、予防接種等について連携し情報の協力をいただいております。	瀬戸内市保険課からは、感染予防に関する対策やワクチン接種に関するの指示があり、取り組んでいる。認定更新の機会等に市の担当者へ、利用者の暮らしぶりを伝え連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアを実践しているが、コロナ禍において、感染予防対策のため開催を控えています。例年では身体拘束等適正化のための対策を検討する委員会を中心に、全職員に周知徹底し、指針も整備しています。職員に対し身体拘束等適正化のための研修が行えるよう取り組んでいます。	身体拘束については、会議の場や普段から話し合いをしている。研修を実施し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。拘縮防止のためツールを活用する際、身体拘束の可能性について意見が出た。身体拘束に対する意識が深まっているのを実感する場面であった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人教育の際、必ず実施している。管理者は職員からの意見を積極的に取り入れ、不適切なケアが行われていないか確認するようにしている。また高齢者虐待防止について内部研修を行い、研修内容については共通理解として周知してもらえよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ感染症予防対策のため、外部研修に参加できる機会は少なかった。制度の活用が必要なケースが発生した場合においては、支援していきたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約に関しては、担当者がご本人、ご家族と面談し、書面と口頭で説明しています。また法改正等があれば、ご家族に書面にて説明をさせていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	状態の変化があれば適宜連絡して様子をお伝えし、ご意向も伺っています。不安のないように説明しています。	入居時、重要事項にて運営に関する説明をして意見を聞いている。「しあわせだより」に入居者の日頃の様子を掲載し、手紙を添えて家族に郵送又は手渡している。電話や来所時に要望を尋ねている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々の申し送り、職員会議にて職員の意見を傾聴し反映している。代表者は管理者と管理者会議を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。	職員からの提案は、職員全員で相談しながら反映させている。ズームにて行われる研修に参加し、支援に活かしている。行事報告で意見が出れば、次回につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、資格が給料に反映する仕組みになっている。随時、勤務条件等についての相談を受け付けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々職員への声掛けや、面談を行い、個人的な悩み等を聞き、早期に解決できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ渦にて行けず。ネット会議やズームにて研究会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面接を行い、ご本人の現状や気持ちに耳を傾け、入居時にも安心できる環境づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に事前面接を行い、ご家族の思いや不安、困りごと、要望等に耳を傾けながら、ご家族の方も安心できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接でのご本人・ご家族の話や利用サービス中の職員・担当ケアマネから情報を聞くことで、必要としている支援を検討するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴、職歴を活かした作業や趣味を取り入れている。呼び名の「〇〇先生」等職歴に即したかつて呼ばれていたように、お伝えしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ご家族やご本人が望まれていること等に耳を傾けています。ご本人とご家族とが心地よく過ごせるよう、面会場所も自室だけではなく、リビングも開放し、好きな場所で過ごしてもらえよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症予防対策を行いながら、馴染みの場所での初詣やお花見、ご家族との外出などの機会に行きつけの美容院など、できる限りの人との関係が途切れないように努めています。	家族関係を大切にしている。コロナ禍においても、事前予約にて人数を制限しながら面会を受け入れている。また美容師の訪問もあるが、行きつけの美容院があれば、家族の協力を得ながら関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を把握したうえでの席決めや、スタッフが調整役となり、孤立することなく入居者同士の良い関係が保たれるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所や病院へ移られた際に混乱することのないように必要な情報提供等を行い、入居者本意の支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や意向はできる限り汲み取るようにしています。また困難な方には、ご家族との相談や生活歴を参考にご本人にとって最善の方法や関わりができるよう努めています。	日々の関りの中で声を掛け、思いや暮らし方を聞いている。意思疎通が困難な人には生活歴や職歴を勘案して、暮らし方の希望や意向を捉えている。残存能力を活かした介護計画となるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、馴染みの関係の方など多方面からこれまでの話を聞いたり、また日々の関わりの中でさらに新たな情報を得るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日、その時の心身状態を考慮し関わりを持ち、申し送りや経過記録を活用し、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的または状態に変化があった時など必要時には、カンファレンスを開き課題とケアのあり方についてを話し合っています。ご家族とは面会時に相談したり、希望を聞いて介護計画に反映するようにしています。	モニタリングは3か月毎に行い、介護計画の進捗状況を確認している。日々の介護記録は詳細に記述され、誰でも本人の状態変化を捉えることができるものとなっている。それらの記録をもとに、介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の様子を記入してスタッフ間で情報が共有できるように申し送りを行っています。必要時にはカンファレンスを行いケアの見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の暮らしの中で一人ひとりのニーズに柔軟に対応できるように努めています。又、感染予防対策を徹底し、看護師、歯科医、訪問リハビリなど多職種の方が訪問し支援の多機能化に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年は定期的にボランティアの方に来ていただき、市の広報や訪問者、スタッフからの情報も活用しながら地域行事にも参加していましたが、現在はコロナ感染症対策のため控えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の方それぞれのかかりつけ医による定期的な往診を受けています。また協力医療機関など複数の医療機関とも関係を密に連携をしています。	入居者の多くは、在宅時からのかかりつけ医が往診してくれる。看護師の資格を持つ管理者が、日々の健康管理をしてくれるので、入居者の家族からは、「とても安心出来る」という意見が寄せられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の体調の様子は日々記録に残し、看護職員に伝え相談しています。又、変化があれば24時間オンコール体制で報告や相談ができ適切な医療関係に繋がるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関へは必要な情報提供を行っています。面会時には、医療関係者と経過を追っての情報交換や相談を行い、退院時、円滑にホームでの生活に戻れるよう体制整備を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針を文書で提示し、口頭にて説明し同意を得ようとしている。状態の変化に応じて、本人、家族、医療関係者等と、その都度話し合いを行っています。	経口摂取が不可、誤嚥を繰り返す、胃瘻造設等、継続的な医療行為が必要となれば重度化とみなし、医師と家族と相談しながら、利用者のことを第一に考えて、他施設への変更を検討してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者、看護師が施設の近くに住んでおり、緊急時には、すぐに駆け付けることができるよう有事に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練や消火訓練を行っています。入居者の方も参加することで、より実践的な避難訓練を行っています。今年度は消防署(予防課)より助言をいただき座学による図上訓練を行いました。	年2回、火災想定での訓練を避難計画書に基づき実施している。ハザードマップから水害の有無を調べ、洪水への避難計画を立てている。地域との協力体制を運営推進会議にて協議する予定。	運営推進会議が再開した時は、地域の人達への協力依頼を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの言葉選びを、内部研修にて定期的に行っています。又、運営推進会議にて意見をいただき、運営理念に基づいた、人としての尊厳と人権を守る対応ができるよう志しています。	日常的に言葉かけに注意して、丁寧な対応を心掛けている。また、制圧的な行動にならないよう注意をしている。身だしなみに気配りし、時期に合った服選びができるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が難しい方にも2択で選んでいたたり、生活歴やその時の心身状態を考慮し、思いの表出がしやすい環境づくり、言葉選びに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コロナ渦にて外出の実施ができていないが、できるだけ室内歩行や運動に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日、その時に合った身だしなみができるよう関わり、必要な方にはセッティングをしています。また定期的に理容、美容の業者の方に訪問してもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	意思表示の困難な方にも、畑の野菜などを利用し、食材に触れることや視覚に訴えることで、季節を感じていただき、食への楽しみがもてるよう支援しています。準備や調理、盛り付け、片付けなども役割を持ち行っています。	敷地内には畑があり、夏にはトマト、キュウリ、ゴーヤ、冬には大根、ネギ、水菜等を植え、野菜を収穫したり、食材にして季節が味わえるよう支援している。誕生日にはホットケーキやプリン等のおやつ作りをして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を個々で把握し記録に残しています。食事量、水分量の少ない方には、本人の嗜好に合わせた食事や飲み物を摂取してもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方へは声かけ、見守りをしています。また援助が必要な方へは、スタッフがお手伝いさせていただいています。又、訪問歯科来所時には相談できる環境づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズム把握に努め、本人の状況・状態に応じたトイレ誘導を行っています。	トイレでの排泄を基本としている。おむつやリハビリパンツをなるべく使用しないように、排泄パターンを把握して、トイレに誘導する等の自立支援をしている。便秘の管理をして快適な生活が得られるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がひどい場合は、看護師による浣腸等も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の方の好きな時間に入浴できるよう、入浴の時間帯は決めていません。又、意思表示の難しい方、入浴が嫌いな方には、清潔が保てるよう個々にそった支援を行っています。	本人の意思を確認してから誘導しているが、入浴拒否があれば、声掛けを工夫しながら浴槽まで一緒に行く。また、寒い時期には室内を温め、スムーズな脱衣ができる等の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう、日中に離床時間を確保している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師による服薬管理をしており、場合によっては主治医との相談の上服薬調整を行い、過度な服薬をしないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なこと、好きなこと、できること、やりたいことの把握に努め、日々の役割や気分転換がおこなえるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年ではホーム周辺の散歩、買物は希望時のみではなく積極的に声掛けをして出かけていました。また地域の方と連携をとり、計画を立てることで地域の行事、お祭りなどに参加していましたが、現在はコロナ感染症予防対策のため控えています。	地域の行事や祭りは開催が中止の為、出掛けていない。コロナが少し収まった頃、感染予防を行い恒例の菊花展に出かけた入居者もいる。ドライブにて川沿いの桜の花見を楽しんでいる。庭に出て外気浴を兼ね、気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の方の金銭は金銭管理の同意を得てホームでお預かりしていますが、外出の際の買物では、ご本人にお金をお渡しして安心して買物が出来るよう配慮しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい希望のある時は、プライバシーが守れるよう電話の子機をお渡しして、自室でかけていただいています。またダイヤルが出来ない方にはスタッフが援助しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方が快適に過ごせるよう温度、湿度には特に注意しています。大きな日めくりカレンダー、季節を感じれる壁画や花等を飾っています。トイレの扉には大きな文字で「お手洗」と表示し、迷うことなく一人でかけるよう工夫しています。	共有空間は、季節の絵、小物、作品を飾る等して居心地よく過ごせる場所となっている。気の合う入居者同士が、仲良くソファに座り、作業や会話を楽しんでいる。畑では、在宅時の話しを聞きながら、利用者と一緒に野菜作りを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、畳コーナーやソファがあり、仲の良い入居者同士がくつろいだり、一人集中して作業が行えるようにしています。玄関にも椅子を配置しており、天気の良い日には、入居者同士でひなたぼっこを楽しんでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方が安心できる環境が作れるよう、自宅ですべて使っていた椅子や寝具等、思い出の品を入居時に持ってきていただいています。又、好みの壁画やカレンダーなどご自由に飾っていただいています。	入口には表札を掲示して、他室と区別できるようにしている。写真や思い出の品々を持ち込んでもらい、それぞれの利用者が居心地良く暮らせる工夫をしている。本人がもらった表彰状や作品等も飾ってもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札を掲げ、好みの飾りなどを付け目印にしています。共有部分には手すりが設置され安全に歩行できるようになっています。又、壁への張り紙等は画鋏等の使用を止めて危険のない物を使用しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372400261		
法人名	株式会社 邑久幸ホーム		
事業所名	グループホーム 邑久幸ホーム ユニット共有		
所在地	岡山県瀬戸内市邑久町尾張94-1		
自己評価作成日	令和3年 11月 5日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・運営理念である「入居者が主人公」を目指して、入居者の方が意志や感情をありのままに表現できる安心感のある雰囲気作りと笑顔で接することを心がけています。 ・入居者の方が、その人らしく持てる力を発揮しながら、生活していただけるように寄り添う介護を行っています。 ・ホームの中においても、季節の移り変わりを感知できるように、菜園で季節の野菜や花を育てています。また、新鮮な野菜や季節の花を頂くことも多く、日々の生活の中で食事に提供したり、花を飾ったりしています。 ・外出支援は積極的に取り組み、冬でも散歩や買い物が行えるよう、日々の健康管理に気を配っています。 ・看護師の常勤配置により、日々24時間体制で連携がとれており、速やかな健康管理ができていますと共に、職員も不安なく業務ができています。 ・職員の教育(接遇、認知症ケア)に力を入れており、病気があっても、入居者様を人生の先輩として尊敬している姿勢を大切にしている点。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3372400261-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和3年11月29日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない ○ 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をフローア、スタッフルームに提示し、理念に基づいたケアが実践できているか職員会議、申し送り等を活用し、確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で実施できていない。例年であれば、夏休みには中高生のボランティア活動を積極的に受け入れ、地域特有の行事やお祭りへの参加などを通し地域の人々と交流を持っていますが、今はコロナ感染症予防対策を優先しているため控えさせていただいております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の認知症の相談、介護保険に関する質問等を随時受けています。現在はコロナ感染症予防対策のため積極的な地域との外部での交流は控えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	例年では、2ヶ月に1度開催しホームでの取り組み、活動報告、入居状態等を報告し、質問、要望、助言をいただき、ご意見は次の課題として取り組めるよう検討していますが、現在はコロナ禍で実施せず。感染症予防対策を優先し、開催事態を控えている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の方の訪問は、現在控えておりますが、市担当者様からはコロナ禍における感染症対策、予防接種等について連携し情報の協力をいただいております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアを実践しているが、コロナ禍において、感染予防対策のため開催を控えています。例年では身体拘束等適正化のための対策を検討する委員会を中心に、全職員に周知徹底し、指針も整備しています。職員に対し身体拘束等適正化のための研修が行えるよう取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人教育の際、必ず実施している。管理者は職員からの意見を積極的に取り入れ、不適切なケアが行われていないか確認するようにしている。また高齢者虐待防止について内部研修を行い、研修内容については共通理解として周知してもらえるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ感染症予防対策のため、外部研修に参加できる機会は少なかった。制度の活用が必要なケースが発生した場合においては、支援していきたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約に関しては、担当者がご本人、ご家族と面談し、書面と口頭で説明しています。また法改正等があれば、ご家族に書面にて説明をさせていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	状態の変化があれば適宜連絡して様子をお伝えし、ご意向も伺っています。不安のないように説明しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々の申し送り、職員会議にて職員の意見を傾聴し反映している。代表者は管理者と管理者会議を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、資格が給料に反映する仕組みになっている。随時、勤務条件等についての相談を受け付けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々職員への声掛けや、面談を行い、個人的な悩み等を聞き、早期に解決できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ渦にて行けず。ネット会議やズームにて研究会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面接を行い、ご本人の現状や気持ちに耳を傾け、入居時にも安心できる環境づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に事前面接を行い、ご家族の思いや不安、困りごと、要望等に耳を傾けながら、ご家族の方も安心できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接でのご本人・ご家族の話や利用サービス中の職員・担当ケアマネから情報を聞くことで、必要としている支援を検討するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴、職歴を活かした作業や趣味を取り入れている。呼び名の「〇〇先生」等職歴に即したかつて呼ばれていたように、お伝えしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ご家族やご本人が望まれていること等に耳を傾けています。ご本人とご家族とが心地よく過ごせるよう、面会場所も自室だけではなく、リビングも開放し、好きな場所で過ごしてもらえよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症予防対策を行いながら、馴染みの場所での初詣やお花見、ご家族との外出などの機会に行きつけの美容院など、できる限りの人との関係が途切れないように努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を把握したうえでの席決めや、スタッフが調整役となり、孤立することなく入居者同士の良い関係が保たれるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所や病院へ移られた際に混乱することのないように必要な情報提供等を行い、入居者本意の支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や意向はできる限り汲み取るようにしています。また困難な方には、ご家族との相談や生活歴を参考にご本人にとって最善の方法や関わりができるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、馴染みの関係の方など多方面からこれまでの話を聞いたり、また日々の関わりの中でさらに新たな情報を得るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日、その時の心身状態を考慮し関わりを持ち、申し送りや経過記録を活用し、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的または状態に変化があった時など必要時には、カンファレンスを開き課題とケアのあり方についてを話し合っています。ご家族とは面会時に相談したり、希望を聞いて介護計画に反映するようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の様子を記入してスタッフ間で情報が共有できるように申し送りをしています。必要時にはカンファレンスを行いケアの見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の暮らしの中で一人ひとりのニーズに柔軟に対応できるように努めています。又、感染予防対策を徹底し、看護師、歯科医、訪問リハビリなど多職種の方が訪問し支援の多機能化に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年は定期的にボランティアの方に来ていただき、市の広報や訪問者、スタッフからの情報も活用しながら地域行事にも参加していましたが、現在はコロナ感染症対策のため控えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の方それぞれのかかりつけ医による定期的な往診を受けています。また協力医療機関など複数の医療機関とも関係を密に連携をしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の体調の様子は日々記録に残し、看護職員に伝え相談しています。又、変化があれば24時間オンコール体制で報告や相談ができ適切な医療関係に繋がるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関へは必要な情報提供を行っています。面会時には、医療関係者と経過を追っての情報交換や相談を行い、退院時、円滑にホームでの生活に戻れるよう体制整備を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針を文書で提示し、口頭にて説明し同意を得ようとしている。状態の変化に応じて、本人、家族、医療関係者等と、その都度話し合いを行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者、看護師が施設の近くに住んでおり、緊急時には、すぐに駆け付けることができるよう有事に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練や消火訓練を行っています。入居者の方も参加することで、より実践的な避難訓練を行っています。今年度は消防署(予防課)より助言をいただき座学による図上訓練を行いました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの言葉選びを、内部研修にて定期的に行っています。又、運営推進会議にて意見をいただき、運営理念に基づいた、人としての尊厳と人権を守る対応ができるよう志しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が難しい方にも2択で選んでもらったり、生活歴やその時の心身状態を考慮し、思いの表出がしやすい環境づくり、言葉選びに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コロナ禍にて外出の実施ができていないが、できるだけ室内歩行や運動に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日、その時に合った身だしなみができるよう関わり、必要な方にはセッティングをしています。また定期的に理容、美容の業者の方に訪問してもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	意思表示の困難な方にも、畑の野菜などを利用し、食材に触れることや視覚に訴えることで、季節を感じていただき、食への楽しみがもてるよう支援しています。準備や調理、盛り付け、片付けなども役割を持ち行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を個々で把握し記録に残しています。食事量、水分量の少ない方には、本人の嗜好に合わせた食事や飲み物を摂取してもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方へは声かけ、見守りをしています。また援助が必要な方へは、スタッフがお手伝いさせていただいています。又、訪問歯科来所時には相談できる環境づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズム把握に努め、本人の状況・状態に応じたトイレ誘導を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がひどい場合は、看護師による浣腸等も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の方の好きな時間に入浴できるよう、入浴の時間帯は決めていません。又、意思表示の難しい方、入浴が嫌いな方には、清潔が保てるよう個々にそった支援を行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう、日中に離床時間を確保している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師による服薬管理をしており、場合によっては主治医との相談の上服薬調整を行い、過度な服薬をしないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なこと、好きなこと、できること、やりたいことの把握に努め、日々の役割や気分転換がおこなえるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年ではホーム周辺の散歩、買物は希望時のみではなく積極的に声掛けをして出かけていました。また地域の方と連携をとり、計画を立てることで地域の行事、お祭りなどに参加していましたが、現在はコロナ感染症予防対策のため控えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の方の金銭は金銭管理の同意を得てホームでお預かりしていますが、外出の際の買物では、ご本人にお金をお渡しして安心して買物が出来るよう配慮しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい希望のある時は、プライバシーが守れるよう電話の子機をお渡しして、自室でかけていただいています。またダイヤルが出来ない方にはスタッフが援助しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方が快適に過ごせるよう温度、湿度には特に注意しています。大きな日めくりカレンダー、季節を感じれる壁画や花等を飾っています。トイレの扉には大きな文字で「お手洗」と表示し、迷うことなく一人で行けるよう工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、畳コーナーやソファがあり、仲の良い入居者同士がくつろいだり、一人集中して作業が行えるようにしています。玄関にも椅子を配置しており、天気の良い日には、入居者同士でひなたぼっこを楽しんでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方が安心できる環境が作れるよう、自宅で使っていた椅子や寝具等、思い出の品を入居時に持ってきていただいています。又、好みの壁画やカレンダーなどご自由に飾っていただいています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札を掲げ、好みの飾りなどを付け目印にしています。共有部分には手すりが設置され安全に歩行できるようになっています。又、壁への張り紙等は画鋏等の使用を止めて危険のない物を使用しています。		